

生涯教育

2025

夏

季刊 No.138



石見銀山 龍源寺間歩入口（島根県）

2024年度 奨学生成果発表会・ライフシフト奨学生交流会	2
歴史研修「関ヶ原の城めぐり」	4
美術研修「横須賀・鎌倉の美術館をたずねて」	6
第40回 彫刻奨学生作品展	8
プロフィール・インタビュー 武蔵野短期大学 副学長・学科長・教授 野村 和さん	12



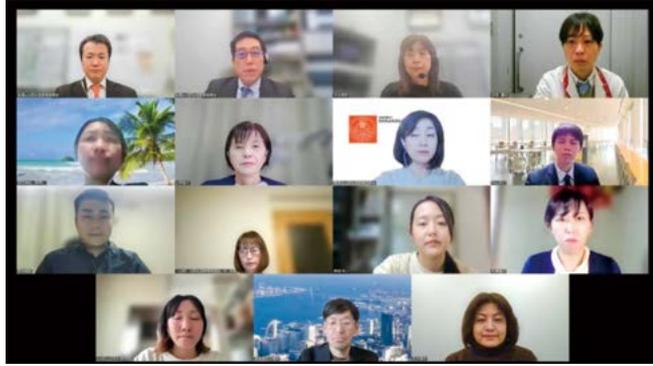
2024年度

奨学生成果発表会・ライフシフト奨学生交流会

2025年3月15日(土)、科目等履修生、放送大学修士全科生の成果発表会がオンラインで行われました。

また、3月22日(土)には、渋谷エクセルホテル東急において、ライフシフト奨学金交流会が開催されました。

奨学生成果発表会



オンライン成果発表会の様子

財団より奨学金を助成している、働きながら大学の科目等履修、放送大学修士全科を履修している奨学生による成果発表会です。北は北海道から南は熊本まで全国の奨学生に参加いただきました。奨学生は普段会うことはなく、初めてオンラインで、画面越しではありますが、顔を合わせ、こんなにも自分と似たような境遇、同じような環境で学んでいる人たちがいることを知り、勇気づけられたようです。

冒頭、沓澤常務理事より「勉学の成果に限らず、なぜ学び直し、リスキリングを選んだのか、自分はどう過ごしてきたのか、他の方は、どのように過ごされてきたか、交流を図っていただきたい」との挨拶があり、最後に奨学金選考委員長の青山学院大学 本庄陽子教授より「自分の時間を作るのが難しい社会人にとって働きながら学ぶことは大変だったと思う。修士論文を書き終

えてほっとしていることと思うが、ここで終わらず今回芽吹いたテーマを更に育んでいってほしい」とのお言葉をいただき、成果発表会を終りました。

ライフシフト奨学生交流会



ライフシフト奨学生



(一社)日本眠育普及協会 代表 橋爪あき様

この交流会は、社会人経験のある学部生、修士や博士課程で学んでいるライフシフト奨学生[※]34名が一堂に会し、研究内容や近況を報告し合い、交流を図り、互いに研鑽を図る会です。冒頭、北野専務理事より「一度社会に出てから、再び学び直しをして、頑張っている皆様の思いや近況を奨学生の皆様同士で共有していただきたい」との挨拶があり、その後、参加者の皆さんに、自己紹介、研究内容や近況などを発表していただきました。「社会人学生として学び直しをしている仲間が大勢いたことに勇気づけられた、刺激を受けた」などの他に、「財団から奨学金を受けることができたことは人生の大きな励みになった」など、財団としても大変うれしい言葉も多く聞かれ、交流会を催した甲斐がありました。

また恒例となりました講演会では、一般社団法人 日本眠育普及協会 代表で睡眠インストラクターの橋爪あき様に「眠るってどんなことだろうか? ~良質な睡眠で学びに活力を!~」と題したご講演をいただきました。ストレスや生活習慣病が蔓延する現代社会において睡眠の役割、重要性、疾病のリスクなどをわかりやすく解説いただき、快適に生きる秘訣をご指導いただきました。最後に、奨学金選考委員長の青山学院大学 本庄陽子教授から総評と励ましの言葉をいただきました。懇親会は毎年、予定時間を超過するほどの盛会ぶりです、今回も働きながら学ぶ同志たちは大いに語りました。

※ライフシフト奨学金制度

一度社会に出て働いている方々が、生涯を通じていつでも必要な時に必要なことを学ぶため、大学や大学院修士課程、さらには博士學位まで見据えて真剣に研究に取り組み、自身のライフシフトを容易に出来る様に、奨学助成をします。更に大学の研究力の向上や研究者の質を向上させ、国際社会に貢献する有用な人材育成を行うことを目指しています。

50代から考える ライフプラン講座を開催



2025.2.22(土)

「50代から考えるライフプラン講座」を、(株)活性化セミナー研究所の豊澤敏明氏と緒方逸郎氏を講師に迎え、渋谷エクセルホテル東急にて開催いたしました。年金制度、老後の貯蓄、社会保険制度などの見直しが世間を騒がせている中、昨年は定員を大幅に上回るご応募をいただき、ご参加いただけなかった方が多数いらっしゃいましたので、今回は規模を拡大して開催しました。



グループ討議の様子

生きがいとライフプラン

人生100年時代、退職後の時間を短くするために、第二・第三の仕事をし、いくライフシフトなど、仕事をし続けるための努力が必要です。それは空から降ってくるわけではありません。「何をしたいか」「何ができるか」「何にこだわるか」を物差しに考えましょう。

また、仕事を単に「賃金を得る」仕事から、誰かの役に立つ仕事「ライフワーク」へとシフトできたならそれは素晴らしいことです。それには、人とのネットワーク作りが重要です。今から準備をしましょう。

「仕事」や「地域」といった社会的生活、「余暇」や「家族」の個人的生活などの充実度が「生きがい」となります。社会的生活の「働きがい」から個人的生活の「暮らしがい」へシフトしていきませんが、どちらかをゼロにしないことが鍵となります。

その他、年金制度、税金についての解説がありました。

ありたい姿を描いて プランを作成

収入と支出(基本支出)について収支を計算し、長期家計プランを20年分作成します。

収入 - 支出 + 貯蓄 = 残高

この残高が使えるお金となります。「いくら使えるか」でライフプランを描いていくのです。やりたいこと、ありたい姿を自由に描いていきます。そこにいくら使えるかで、出来る、減らすなどメリハリをつけます。また、ありたい姿を実現するための具体策を書き出していきます。



講師：緒方先生



講師：豊澤先生

ご参加の皆様からは「可視化することによって不安をどう解消するかわかった」「年金額や資産などを明確にすることができた」「基礎生活費の内訳が勉強になった」「資産運用や家計費の見直しをやってみる」とあり、それぞれ気が付きがあったようです。



岐阜関ヶ原古戦場記念館の前で



歴史研修

2025年
3月26日(水)～27日(木)

関ヶ原の城めぐり

今回の歴史研修は、東軍と西軍が激突し『天下分け目の関ヶ原』として歴史上に名を残す、有名な戦の地に建つ岐阜関ヶ原古戦場記念館と古戦場、岐阜城、大垣城を歴史学者の小和田 哲男先生の名解説と共にめぐりました。



解説

静岡大学名誉教授
小和田 哲男氏

岐阜関ヶ原古戦場 記念館&古戦場



床面のスクリーンで、関ヶ原の戦いに至るまでの流れとその規模の大きさを俯瞰で見られる

画像提供：岐阜関ヶ原古戦場記念館



パネルの小和田先生がお出迎え

岐阜関ヶ原古戦場記念館は、関ヶ原の戦いを五感で味わえる体験型の施設です。1600年9月15日に起こった関ヶ原の戦いでは、徳川家康率いる東軍と、石田三成を中心とした西軍が激突。両軍合わせて約16万もの兵が動員されましたが、複数の武将が西軍から東軍に寝返ったために、わずか6時間ほどで東軍の勝利が決定しました。

臨場感たっぷりのシアター。戦場に入り込んだよう



画像提供：岐阜関ヶ原古戦場記念館



実際に刀を持って重さを感じる

最上階は展望台
現在の関ヶ原を一望



実はこの施設、小和田先生と深い関係が。10年ほど前、構想段階から学識者として参画してほしいと声が掛かり、さまざま提案を行ったそうです。現在では館長を務められており、今回は館長直々に案内いただくという、貴重な経験ができました。

小和田先生からは、そもそもなぜ関ヶ原の戦いが起こったのかを詳説いただきました。「豊臣秀吉が亡くなったとき、息子の秀頼がわずか6歳だった。もし15、16歳であれば、家康の出る幕は、江戸時代もなかったかもしれない」。歴史の因果を考えさせられるお話を伺うことができました。

小和田先生談 岐阜関ヶ原古戦場記念館の こだわり

「関ヶ原って岐阜なの？ 滋賀なの？」と疑問に思う方がいるそうで、施設名にも「岐阜」を付けることになりました。展示品は本物にこだわり、寄贈の呼びかけに力を入れたところ、多くの方にご協力いただきました。貴重な資料を、表に出すことができたという意味でも、この記念館を作ってよかったと思っています。館長の打診をいただいたときは、てっきり名誉館長だと思っていましたが、本当の館長でした。いろいろと提案させていただいたので、責任を取る必要があるかなと思い、引き受けました。



笹尾山山頂。三成はここで何を思ったのか



三成が陣を張った笹尾山に登る



史跡めぐり。随所に設置された看板も、記念館オープンと同時にリニューアルされておりわかりやすい。最年少参加者も熟読(未来の小和田先生!?)

岐阜城

岐阜市の金華山山頂にある岐阜城。かつては稲葉山城という名でしたが、1567年に織田信長がここを攻略し、城と町を「岐阜」と命名しました。他にも「岐山」「岐陽」が僧から提案されており、その中から信長が「岐阜」を選んだとか。

信長はこの城に「地上の楽園」と称される迎賓館を建設しました。自然景観を活かし、滝が流れ落ち、橋が架かる凝った造りであったことが、発掘調査によって明らかになっています。

関ヶ原の戦いでは、信長の嫡孫秀信は西軍に付きます。1600年8月23日、岐阜城は前哨戦の舞台となって落城しました。

現在の天守は1956年に再建されたもので、城内の資料館では信長にまつわる資料を見ることがができます。



山頂に建つ岐阜城。青天時の山頂からの見晴らしは抜群で「ここ来ると天下を取ったような気持ちになる。私も大好きなんです」と小和田先生。当日はあいにくの霧模様



高い技術から信長の入城後に造られたと考えられる石垣と井戸跡

解説をする小和田先生。おもてなしが好きだった信長は、宣教師フロイスを城に招いた際には、大切に飼っていた鶏を絞めて振る舞ったそう



大垣城

大垣城は、大垣市にある平城です。比較的小さな城ですが、関ヶ原の戦いでは重要な役割を担いました。1600年8月10日、三成が入城し、ここを西軍の本拠地とします。9月14日には前哨戦が始まりますが、翌日関ヶ原での西軍敗北が伝わると、城内でも東軍に寝返るものが現れます。本丸だけは粘りますが、ついに9月23日、降伏し開城しました。

小和田先生からは、大垣城に遺る物語として『おあむ物語』の紹介がありました。三成の家臣の娘が、晩年に子どもたちに語ったお話で、戦に関わった女性の姿を伺うことのできる貴重な物語として、現在も文庫本などで読むこと



大垣城の前で。天守は1959年に再建されたもの



大垣市郷土館。関ヶ原合戦図屏風をじっくり見る



大垣城のジオラマ。山城と比べ攻めやすいと思われがちな平城だが「堀に入ると泥にはまって動けなくなり仲間を助けてもらった。平城の堀は、強力な防備の要です」と小和田先生

ができるそう。関ヶ原の戦いの舞台をじっくりと回った2日間。かつてそこで繰り広げられた人間ドラマに、思いを馳せる旅となりました。



美術研修

2025年5月14日(水)

講師：美術研究家 沼辺 信一氏



横須賀美術館をバックに

横須賀・鎌倉の 美術館をたずねて

神奈川県横須賀市と鎌倉市にある美術館を日帰りで訪れました。



山本丘人《地上風韻》
1975年
成川美術館蔵

横須賀美術館

自然の景観と調和するガラス箱のような美術館は、三方を山に囲まれ、正面からは海の眺望が楽しめます。開放的なエントランスホール、そして天井や壁にリズミカルに配置された丸穴から差し込む優しい陽の光は、美術品には決して影響がないよう計算されています。設計者の山本理顕氏は、建物のノーベル賞とも称されるブリツカー賞2024を受賞しました。

さて、当日は「箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション展」が開催されており、コレクションの中核を成す、近代日本画の革新者、山本丘人（1900-1986）の作品などを鑑賞しました。講師の沼辺先生より「日本画特有の輪郭線がなく、構図や力強いタッチは油絵の洋画と区別がつかない。新たなものへ挑戦していることがよくわかる。ここではもう、日本画とは画材が岩絵の具であることしか意味しません。」との解説があり、挑戦を続けた芸術家の気概を感じました。また、晩年の文学的、詩的な世界観の表現も大変印象的でした。

さらに「日本画は元来、襖絵や屏風、掛け軸など、建物の一部として存在していたが、生活様式の西洋化により額装して鑑賞するようになった。仕方がないとは言え、額のガラス越しではどうしても作品が遠い存在となってしまう。」との解説を聞き、この展覧会では、一部の作品がガラスケースに収められずに、あえて剥き出しの形で展示されている意図を理解し、その迫力や美しさを堪能しました。



鎌倉市鎌倉清方のアトリエ



鎌倉市鎌倉清方記念美術館蔵
©Kiyoo Nemoto 2025/JAA2500067



印象的な横須賀美術館の
エントランス



浅井忠《尼(巴里風俗)》1903年
石版、紙
神奈川県立近代美術館蔵(青木文庫)



中村不折(画)
《北斎鳥跡ヲ利用シテ立田川の図ヲ為ル》1908年
木版(新聞挿絵の清刷)、紙
神奈川県立近代美術館蔵(青木文庫)



解説をする沼辺先生

お天気にも恵まれ、薫風の横須賀・鎌倉を満喫した一日でした。

鎌倉市鎌倉清方 記念美術館

鎌倉の小町通りを脇道に少し入るだけで別世界のような静けさを感じる、そんな美術館です。鎌倉清方(1878-1972)は近代日本画の巨匠で江戸の浮世絵の画系をひく画家であり随筆家でもあります。当日は特別展「もの想う美人」にて浮世絵や上村松園、川瀬巴水、伊東深水などの作品も展示され、その時代を生きた女性の容姿の美しさのみならず、背景の物語や女性の内面をも表す深い表現に魅入られました。また、髪の毛の生え際が細かく描かれているところなど清方が喜多川歌麿の浮世絵を強く意識していることがよくわかる展覧会でした。

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

「木茂先生」こと、明治美術の研究者で愛書家の青木茂(1932-2021)の旧蔵書として当美術館に収蔵されている「青木文庫」を紹介するユニークな「挿絵」の展覧会が開催されています。挿絵は、江戸時代には絵師が手掛けていましたが明治になると洋画家の仕事へと移り、また印刷技術の変遷とともに作画の技法が変化していくことなどを沼辺先生に解説していただきました。日本で初めて出版された「アラビアンナイト(千夜一夜物語)」である「開巻驚奇 暴夜物語」(奎章閣、1875年刊)や、ミュシャを意識したような文芸誌「明星」の表紙コレクションの展示もあり、明治時代の芸術家や芸術愛好家たちの海外への強いあこがれを感じました。

日本大学大学院
芸術学研究科
山本 紘大さん



『Look in on』



『Grandma's footsteps』



『composition 1』



公園に設置

自分は人体をモチーフに主に石膏の作品を制作しています。歴史や文化、風俗、精神哲学、思考などに興味があり、それらは総じて人類の活動に関連性が認められる領域であり、自身の創作もそれらに着想を得ることが多くあります。「精神/身体」と「主観性/客観性」により人格が構成されていると感じ、これらの抽象的要素に、ヒト固有の「人体」という具体的な形を借用し彫刻として表現しています。公園に設置する「Grip the ground」は巨人伝説をモチーフに制作しました。

日本大学芸術学部
美術学科
木谷 茜さん



『おやど』



『巡る』



『波の記憶』



重機で釣り上げて慎重に設置

私はネコのための彫刻を造りたいと思っています、それをかたちにしていきます。ネコが中に入って休んだりくつろいだりしてくれたらいいなあと思っています。ずっと大学で制作しているので、残念ながら実際にネコは入っていません。公園に設置したらタヌキかハクビシンが入るかも!? 「おやど」なのでそれもあります。やわらかい大理石の作品を造るのが初めてだったので試行錯誤しながら、6カ月かけて造りました。砥石をかけて滑らかな丸い感じに仕上げました。

第40回 彫刻奨学生作品展

2024年11月25日(月)～12月7日(土)、日本大学芸術学部江古田キャンパス内で「第40回彫刻奨学生作品展」が開催されました。奨学生5名の作品がギャラリーや資料館に展示され、才能あふれる若い芸術家の作品たちが多くの来場者の目を惹きました。また、奨学生の作品は3月に山梨県笛吹市「藤堡の滝 大窪いやしの杜公園」に寄贈され、笛吹市のみなさんの芸術鑑賞の一助となっています。10月には公園で開催される「星空ミュージアム」に合わせてライトアップされる予定です。ドライブがてら出かけてみてはいかがでしょうか。

女子美術大学芸術学部
美術学科
的場 梨乃さん



「オプニミティブ角」



笑顔で作品について説明



「千葉」



一見するとビルのように

私は一見無機質とされるものに対して、その中に潜んでいる生物性を感じることがあります。人間が作り出したものたちの声が聞こえてくる気がします。無機質性と有機性の間で新しい価値・生命・形・空気を作り出したいと思っています。ある時、オムニトニックホルンという古いホルンの写真を見て、狂気じみた生命力を感じ、それを作品にしようと思いました。公園に設置する作品は構造物を立ち上げる事によって、自分の存在を構築したいと思いました。自分の年齢と同じ数の層があります。

多摩美術大学大学院
美術研究科
山本 ゆりさん



「トロフィー」



一緒に記念撮影



「拝啓」



設置のための穴を開ける

私は動物をモチーフに「彫り」の技法で制作しています。彫りという行為は情報を削いでいくことに似ていると思います。動物を通じ、いかに人間のエゴイズムを表現できるか？ 要素をできる限り減らし、言葉を削ぎ落とし、小難しくなく広い世代に伝わりやすい表現を目指しています。「トロフィー」は初めて大型の木彫りに取り組んだ作品です。「百獣の王といえども武器の前では無力である」をテーマとしています。製作期間は3カ月で、たてがみを上手く表現するのが難しかったです。

日本大学芸術学部
美術学科
菅沼 緋南さん



桶で落ち葉を表現



作品と笑顔で



「朽ちる葉」



「朽ちる葉」

落ち葉は、季節の移り変わりや土から芽が生え木となり、葉がなり、枯れ、散って落ち葉となり、朽ちてまた土となる、という自然のサイクルの一部を象徴するものだと思います。私はその少しずつ朽ちてゆく姿が美しいと感じ、落ち葉をモチーフに木彫しています。儚く繊細な形は、永遠ではないからこそ美しいのかもしれませんが、私はその形を残したいと思い制作しました。それぞれの葉が持つ特徴や個性を彫刻し自然の美しさや豊かさ、温かさを表現しています。

北野財団混声合唱団 チャリティコンサート

Vol. 7

行け、わが想いよ、わが歌よ

2025年3月9日（日）

2025年3月9日、当財団主催による「北野財団混声合唱団チャリティコンサートVol.7」が、めぐろパシモンホール小ホールで開催されました。

北野財団混声合唱団は2012年から毎年参加者を公募し、当初は「フォーレのレクイエムを学び歌う会」の名称で「東日本大震災鎮魂コンサート」として活動を始めました。5年の活動を経て2018年に現在の名称に改称し、ただ歌うだけでなく幅広い教養と経験を得られるよう、結団式では多岐にわたるテーマで専門家を招き講義を行い、コンサートでは様々な楽曲に取り組んでいます。

今回のコンサートは「行け、わが想いよ、わが歌よ」というテーマを掲げ、10月



半年間の合唱指導と本番の指揮をしてくださった
竹内雅拳さんと荒牧小百合さん



素晴らしい音色を奏でた佐久間大和先生

から半年間の練習に励んでまいりました。世界では紛争が止むことなく起り、国内ではひと昔前なら考えられないような事件、事故が起こり、明るい未来を想像しがたいニュースが目に見え、悲しみを覚えます。お越しいただいたみなさまに、少しでも希望の光を灯すことができるよう心を込めて歌いました。

公募により集まった総勢60名の合唱団員が、まず平和への祈りを込めてJ.ラター編曲《11のグレゴリオ聖歌集》より「今日、キリストが生まれた」「天使のミ

Program

第1部

今日、キリストが生まれた
Hodie Christus natus est
天使のミサ〜キリエ Kyrie de angelis
J. ラター 編曲 《11のグレゴリオ聖歌集》より

ほらね、
伊東恵司作詩 / 松下耕作曲

前へ
佐藤賢太郎作詞 / 作曲

夜明けから日暮れまで
和合亮一作詩 / 信長貴富作曲

第2部

G線上のアリア Air
J.S. バッハ作曲
《管弦楽組曲第3番 BWV1068》より

美しきロスマリン Schön Rosmarin
F. クライスラー作曲

チャールダッシュ Csárdás
V. モンティ作曲

行け、わが想いよ、金色の翼に乗って
Va pensiero, sull'ali dorate
G. ヴェルディ作曲オペラ《ナブッコ》より

ダツタン人の踊り
Половецкие пляски
A. ボロディン作曲オペラ《イーゴリ公》より

花は咲く
菅野よう子作曲 / 岩井俊二作詞 /
山田香編曲（編曲委嘱作品）

「今日、キリストが生まれた」「天使のミサ〜キリエ」を演奏し、厳かな雰囲気にも包まれました。次に2011年の東日本大震災の後、カワイ出版が実施した「歌おうNIPPONプロジェクト」をきっかけに作曲された楽曲たちを歌いました。このプロジェクトは被災者のために書かれた曲を無料で配信し、日本中の合唱愛好家に歌っていただいで、インターネットを通じて被災された方々へ届けることを目的としたものでした。「僕らは一人じゃない」と温かい言葉で寄り添うような音楽、そして歌で多くの方とつながりたい、そんな思いを歌いあげました。また、CMにも使われ誰しも一度は聴いたことがある有名な歌劇の楽曲を、ロシア語で演奏しました。コンサートの最後には毎年恒例となっている「花は咲く」を出演者全員、そして来場者は心の中で歌い、会場は温かい大きな拍手に包まれました。

なお、コンサートによるチケット収入は、能登半島地震復旧・復興支援のために役立てていただくよう石川県に全額寄付いたしました。

ご報告



2025年度音楽奨学生 奨学金授与式

4月20日、渋谷エクセルホテル東急において、第17回音楽奨学生奨学金授与式が行われました。この奨学金制度は、当財団が芸術振興の一助として、愛知県立芸術大学の学生を対象として2009年より実施していますが、今年度からより多くの学生に対し奨学助成しようと、新たに東京藝術大学と東京音楽大学の2校を加え、3校が対象となりました。

奨学生に選ばれた各学校の優秀な学生に、北野七重専務理事より奨学金が授与されました。奨学生たちは、選ばれた喜びと抱負を熱く語りました。



今回の9名を加えると奨学生は58名になりました。来年2月には3校9名による合同演奏会を開催いたしますので楽しみにお待ちしております。

お知らせ



デジタル一眼レフ カメラ講座

今回のデジタル一眼レフカメラ講座は群馬県伊香保で開催いたします。講義を受けたあとと撮影実習を行い、参加者の作品を撮影しながら先生からご講評をいただきます。素敵な瞬間を写してみませんか。後日、中目黒GTギャラリーで作品展を開催します。



2024年の講義の様子

歴史研修 群馬の城めぐり

日程 9月5日(金)～9月6日(土)
会場 伊香保周辺
定員 20名程度(抽選)

幾度となく武田信玄の攻撃を防いだ難攻不落の城として有名な箕輪城。曲輪や堀の様子が当時のまま残る岩櫃城。三方が絶壁となっている天然の要塞に作られた山城である名胡山城を歴史学者 小和田哲男先生の名解説と共に楽しくみください。



日程 10月29日(水)～10月30日(木)
講師 小和田 哲男氏
定員 37名程度(抽選)

目黒区美術館 「彫刻奨学生の現在展」開催

当財団創立50周年を記念して、目黒区美術館区民ギャラリーで彫刻作品展を開催いたします。2015年以降の彫刻奨学生の作品を中心に30作品ほど展示いたしますので、お誘い合わせのうえ是非ご来館ください。

日程 12月11日(水)～12月20日(土)
会場 目黒区美術館 地下1階 区民ギャラリー
入場 無料

オペラ『ヤマタノオロチ』 合唱団結団式開催

当財団創立50周年を記念して、2026年4月19日(日)にめぐろパシモンホール大ホールでオペラ『ヤマタノオロチ』を再演いたします。

その舞台に立つ合唱団結団式が、5月27日(水)中目黒GTプラザホールで開催されました。合唱指導の先生方のご挨拶の後、台本を書かれた、たかはしけいすけ氏による『ヤマタノオロチは誰か』オペラ『ヤマタノオロチ』台本の解説』の講演がありました。10年前の映像を観ながらお話しされ、合唱団メンバーは意気込みを新たにしました。その後、主演のヤマタノオロチを務める宮本益光さんからご挨拶があり、合唱団メンバーはさらに気持ちを高ぶらせました。

こ・ち・ら・編 集 室

当財団は6月23日に創立50周年を迎えました。本ページでお知らせしておりますが、記念イベントとして12月には目黒区美術館において「彫刻奨学生の現在展」を開催。2026年4月にはめぐろパシモンホールにてオペラ『ヤマタノオロチ』を再演いたします。みなさまの温かいご支援と信頼に心から感謝申し上げます。準備を進めてまいりますので、今後とも一層のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより 第138号

2025年7月10日発行
編集人 香澤 利治 発行人 北野 重子
発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会
〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号
電話 東京 03(3711)1111

表紙ギャラリー

当財団は、「出会いはドラマ、感動する心を大切に」というスローガンのもと、出合いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出合いだけでなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出合いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

石見銀山 龍源寺間歩入口(鳥根県)

石見銀山は、鳥根県大田市に位置する日本最大級の銀鉱山で、16世紀に発見・開発されました。戦国時代から江戸時代にかけて活発に採掘され、最盛期には世界の銀産出量の約3分の1を占め、その高品質な銀は「日本銀」としてアジアからヨーロッパまで広く流通、国際貿易において重要な役割を果たしました。江戸幕府もこの銀を重視し、銀山の支配を強化しました。特徴的なのは、環境に配慮した採掘や排水技術、山間地に適応した町づくりなど、自然と共存した持続可能な開発が行われていた点です。19世紀後半になると銀の生産量が減少し、閉山に至りますが、鉱山跡地の周囲には、坑道(間歩)や精錬所、武家屋敷や町屋が残り、歴史的景観が今も保たれています。これらの文化的・技術的価値が評価され、2007年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。現在は観光地としても人気を集めています。



写真提供:kusuritiba/PIXTA



武蔵野短期大学 副学長・学科長・教授

野村 和さん

NAGOMI NOMURA

「生涯教育」は希望の光。 まだまだ変われる、幸せになれる

2022年から当財団の奨学金選考委員会の選考委員を務める野村さん。
「自身の経歴をもとに、生涯教育に対するお考えをお話いただきました。」

——野村さんの経歴についてお聞かせください。

ヘレン・ケラーとその家庭教師アニー・サリバンを描いた戯曲『奇跡の人』との出会いが、教育の世界に惹かれたきっかけでした。中学生だった私は「教育の力で、誰かの人生を変えられるんだ」と深く感動。教師を志し、大学では教育学を専攻しました。

しかし、90年代という時代も影響したのかもしれません。大学では、教育に夢を抱けなくなっていました。「ゆとり教育」が行き詰まっているにも関わらず、次の一手が見えてこない……。教育業界全体に、閉塞感が立ち込めているように感じました。

そんな中で、私にとつての「希望の光」となったのが、必修科目だった「生涯教育学」。人は生涯学び、成長し続けることができるという考え方に、視界がパッと開けた気がしました。それ以降「生涯教育」を軸に学びを深め、学部では江戸時代の大坂町人の余暇活動、大学院ではお稽古事としての伝統芸能の学びについて研究しました。

一方で、その後、幼児教育や保育も研究対象に加えました。先輩から「女性研究者も活躍しやすい『保育』で業績を作るべき」と勧められたのです。当時ならでは、少々ネガティブな理由ではありましたが、今となつては教育を多角的に見つめられるようになり良かったと思っています。

——選考委員を務めていただくことになった経緯や、当財団の事業で関心のあるものを教えてください。

学生時代からお世話になっていた鈴木真理先生にお声がけいただきました。事業の中で特に魅力に感じているのは



「ライフシフト奨学金」です。学び直しを対象とした奨学金は珍しいのではないのでしょうか。今の日本では、一度社会に出た人が学問の世界に戻るのには、ハードルが高い空気があります。奨学金という形で、勇気を持つて一歩を踏み出した人たちにお墨付きを与えるのは、社会へのメッセージとしても意義あることだと思います。

——生涯教育に対するお考えをお聞かせください。

生涯教育とは「自分の人生を豊かにすると思える活動すべて」。これが私の定義です。「やってみよう」と思ったことは、ぜひ何でも挑戦してみてください。「今のままで十分」と思う方もいるかもしれませんが、現状維持も決して悪いことではありませんが、世界は絶えず変化し、新しいことが次々と生まれています。「私の人生も、もっと楽しくなる」と少し欲を捨ててみてもいいのではないのでしょうか。

——余暇の過ごし方を教えてください。

大学生の時に3D映画を見て「こんなに面白い技術があるんだ！長生きしてもっと新しい技術を体験しよう」と心に決め、今も映画館に通い詰めています。最近では、学生にすすめられて行った、来場者参加型の「インタラクティブ映画」に驚かされました。



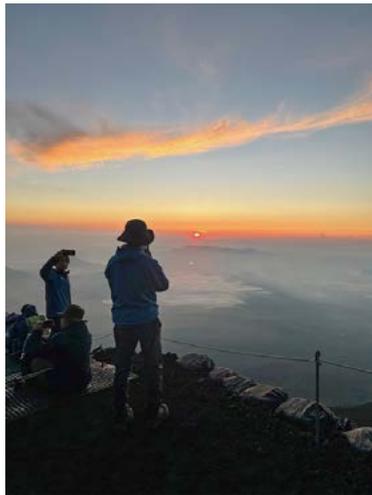
美しい野草との出会いも登山の楽しみ



富士登山へのトレーニングとして登った日光白根山



目標の富士山を登頂！



3年前からは山登りも始めました。ふと「富士山に登りたい」と思い立ち、登山好きの両親に付き合ってもらい、トレーニングのためいくつもの山に登りました。登山を通して周辺の地域のことを知るのも面白いですね。

——読者の皆さんにメッセージをお願いします。

「何がやりたいのかわからない」「制約があつてできない」という方は、実現可能かどうかは度傍に置いて、理想論でかまわないので自由に空想してみるのも手です。人生をもっと豊かにする入り口が、さっと見えてくると思います。

生涯教育が、「ご自身にとつての『希望の光』だった」と語る野村さん。生涯教育を、多くの人の人生に取り入れてもらいたいという、熱い思いが感じられました。